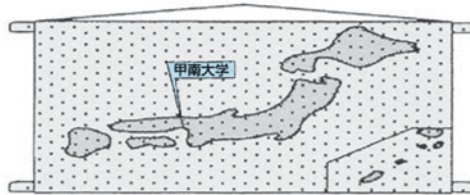


Zephyr

〈第52号〉

ゼフィール・にしかぜ



<http://www.kilc.konan-u.ac.jp>

《特集※学生たちの寄稿》

★所長からのメッセージ：外国語を「インプットする楽しみ」から「アウトプットする喜び」へ	中村 典子	2
〔英語〕外国語を学ぶことの大切さ・喜び	西野 一紀	3
〔ドイツ語〕役に立ったドイツ語！ 専門の勉強、英語の上達、仲間との出会い	上山 静香	4
ドイツ語＋英語学習奮戦報告（学ぶ楽しさと辛さ！）	中江 広悟	4
〔フランス語〕「学ぶことの大切さ」を私に教えてくれたフランス語	稲橋 孝介	5
知的好奇心から複数の外国語（英語・フランス語・中国語）を学ぶ	礪田かえで	5
〔中国語〕ことばで境界を越える	若林 まい	6
ことばで世界は変えられるか	山本美智子	6
〔韓国語〕韓国語を学ぶ喜び	則直 温子	7
〔日本語〕ユニバーサル・スタジオで	マリナ・バラアン	8
私の人生を変えた日本語	ケース・ジャワースキー	8
留学の魅力	ダニカ・リム	8

甲南学園創設者

平生鈞三郎

「世界に通用する

紳士・淑女たれ」



「英語＋1（第2外国語）」
教育プログラム

「使える外国語教育」

国際言語文化センター機関紙（年3回刊行）

甲南大学の外国語教育方針は複数言語習得にあり

「外国語学習とは文化を学ぶこと」「外国語は異文化交流の道具」——。甲南大学の現役生や卒業生が『ゼフィール・にしかぜ』に寄せてくれた外国語学習に対する思いから、私は甲南大学の外国語教育の方針にますますの自信を持ちました。外国語の習得は、単なる語学学習では成り立ちません。われわれが力を入れているのは、異文化理解、複数言語習得を柱とした“使える外国語教育”です。授業・海外語学講座・留学などを通し、「外国語を学ぶことの大切さは、文化を学ぶことと母語の文化を再発見すること」「文化を知ることは外国語をさらに理解することにつながる」「第2外国語は英語の授業と並行して受講し、違いを意識しながら文法を勉強していくことで、双方の言語への理解を深めることができる」ことなどを実感した学生たちは飛躍的な外国語運用力をつけたに違いありません。「苦境すら楽しみに変わった」「多様な考え方や価値観に出会い、周囲に触発されながら過ごせた」「視野が広がり、外国語を使って異文化の相手とコミュニケーションがとれる面白さを味わった」「自然、文化、言葉、人、すべてが新鮮で刺激的」「自らの語学力を使って世界を変えていきたい」などの留学経験も、今後の人生に大きな力をもたらすことでしょう。どの文章にも、大学の授業を基にそれぞれの外国語学習法を開発しながら努力している様子が窺え、大変嬉しく思いました。外国語の習得は、“豊かで実りある人生を拓く”ということを改めて教えてもらったように思います。（胡金定）

外国語を「インプットする楽しみ」から「アウトプットする喜び」へ

国際言語文化センター所長 中村典子

甲南大学国際言語文化センターは、在学生の皆さんの外国語の運用能力を高めるための授業とそのサポートを行う機関です。外国語学習を成功させる秘訣とは何でしょうか？ ハーバード大学名誉教授で外国語教育に関する研究で有名なウィルガ・M. リヴァーズ (Wilga M. RIVERS) によれば、大人は、コミュニケーションをする時間のうち、40～50%をリスニングに、25～30%をスピーキングに、11～16%をリーディングに、約9%をライティングに使っているそうです。外国語の運用能力を高めるには、まず、インプット（リスニングとリーディング）する楽しみを味わうことが大切だと言えるでしょう。外国語でコミュニケーションしたことのある方はわかると思いますが、自分の外国語での表現が、相手に理解されたとしても、相手の言うことが理解できなければ、「コミュニケーション」は成り立ちません。リヴァーズも、**コミュニケーションするためには、話し言葉の聴解(listening comprehension) が何よりも重要である**¹と述べています。

では、外国語の聴解力を伸ばすには、どうしたらよいのでしょうか？ 私の学生時代には、インターネットもiPodもなく、外国語の聴解力を自分で鍛えるための道具としては、カセットテープしかありませんでした。また、私は中学生の頃から外国語に興味があり、洋画を見るために月に1度は映画館に通っていましたが、当時はビデオもDVDもなかったので、気に入った映画を再び「聴く」ためには、再度入場料を払うしかありませんでした…。当時、四国の地方都市の映画館でもフランス映画が頻繁に上映されており、フランソワ・トリュフォー (François TRUFFAUT) の『アメリカの夜』『アデルの恋の物語』などのフランス映画を「聴いた」ことで、フランス語を勉強したいと思うようになりました。外国語を「聴く」こと、外国語を「インプットする楽しみ」を体験するのに、現在ほど恵まれた時代はありません。DVDを利用すれば、気に入った洋画などを何度でも好きなときに「聴く」ことができます。不思議なことに、映画で覚えた台詞というのは、なかなか忘れません。しかも、その台詞を言っていた俳優の声まで、脳のどこかに記憶されているのです…。だまされたと思って、気に入った映画を10回ほど聴いてみてください。あるいは、YouTubeにある洋画の「予告編」を10回ほど聴いてみてください。音楽が好きな人は、iPodを利用して外国語の歌を何度も聴きましょう。因みに、最近iPhoneを手に入れた私は、フランスのラジオ局のニュースを屋外でリアルタイムで聴いています。**外国語をインプットする楽しみを見出し、インプットを継続することが、外国語の運用能力を高めるための鍵だと言えるでしょう。**

さて、インプットの次はアウトプットです。昔は、外国人のペンパルと英語で文通をすることが奨励されていました。今や、インターネットの普及により、mail, chat, Skype, Face-timeなどを利用し、外国語でアウトプットし、コミュニケーションする機会はいくらでもありますね。**インプットをした量の10分の1でいいから、思い切って外国語でアウトプットしてみてください。**外国語なのですから、間違えても当然で、少しずつ正しい表現を習得することが大切です。

さて、本学には、多くの交換留学生がいて、**国際言語文化センターの「チューター制度」により、同世代の留学生たちと英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語でコミュニケーションできる体制が整っています。**チューター制度をうまく活用してください。外国語で「アウトプットする喜び」を体験できたら、あなたの外国語学習は成功に向かっていきます。

1 Wilga M. RIVERS, *Teaching Foreign-Language Skills*, Second Edition, The University of Chicago Press, 1981, p.151.

外国語を学ぶことの大切さ・喜び

文学部英語英米文学科4年 西野一紀



これが今日からあなたの仕事ですとの一言で2011年8月から始まった僕のアメリカでのアルバイト。それは、ESL conversation classのチューターでした。つまり、英語を母語としない学習者のために開講される英会話授業のチューターをアメリカに着いてすぐに任されることになったのです。僕が履修した第二言語指導法課程はチューターとして指導する経験を必ず積むプログラムでありました。言語と文化の壁が僕に立ち

はだかる中、英語とアメリカ文化に自分自身が慣れながら、またそれを教えることを出発点として、僕の留学生活はスタートしました。その中で、僕が感じた外国語を学ぶことの大切さは文化を学ぶことと母国の文化を再発見することです。外国語の学習は問題集を開いて文法問題とにらめっこだけではないです。例えば、簡単な挨拶も言語学習であり文化学習です。英会話授業は笑顔で“How are you?”と挨拶を交わすことから始まります。その後の会話は、学生が“Good! How are you?”と答え、チューターは“I’m great! Thank you!”と答えるのです。互いが心を通わし、一体感が生まれます。そして、笑顔で“Have a good day!”で授業は終わり、学生は“You too.”と答えます。レジで支払う際にも、支払った後に店員さんは“Have a good day!”と声を掛けてくれます。そして、“You too!”と返事します。とても明るく温かい雰囲気を感じられる挨拶が英語にはあります。こういった明るい挨拶をすると気分も嬉しくなるものです。この明るく温かい挨拶が当たり前のように、どこでも交わされているため挨拶がなければとても冷たい印象を受けました。小学校や中学校で学習する簡単な挨拶も人と人の心をつなげる役割を果たすという意味で、英語という文化の重要な一部であると思いました。文化を知ることで外国語をさらに理解することにつながり、学習がより楽しく意義あるものになります。同時に、僕は日本語のクラスでもチューターをしていました。英語を学んでいるからこそ、比較することが可能となって、日本語を見直し素晴らしさを発見する機会になりました。外国語を学んだことが母国への興味・関心を引き出してくれました。それは視野の拡大という意味でも僕に大きく貢献しました。視野をもっと広げようと、アメリカで中国語を学ぶことを決めたのです。中国語と中国文化を学び、日本語と共通する漢字の多さに有史以来続く日中の歴史的交流を感じました。外国語の学習は、文化を学ぶことであり、それは外国語学習を促進するだけでなく自己の視野を内外に大きく拡大させます。拡大した目で周囲を見ると、全く異なる世界であるように楽しさが至る所に溢れているように感じます。これが外国語の学習の大切さ・喜びであると思います。

ドイツ語

役に立ったドイツ語！ 専門の勉強、英語の上達、仲間との出会い

文学部人間科学科4年 上山 静香



大学に入学した時、何か今までしてこなかったことをしてみよう、と思って選んだのがドイツ語でした。専門科目として心理学や哲学を学ぶにあたって、ドイツ語圏出身の研究者が多いということ、大学院進学の際に試験で使えるということで、第二外国語に迷わずドイツ語を選んだのをよく覚えています。

とはいえ、正直なところ、当時は自分がドイツ語を上級まで履修するとは思っていませんでした。元々英語もあまり得意ではなく、また自分の性格も興味が長続きするタイプではないので、不安を感じていました。しかし、授業を受けていく中で、基本さえ押さえれば後はパズルのように単語を並べる、という手順で文を作ることが出来るすっきりとした面白い文法だということが分かり、3年間続けることが出来ました。要点さえ押さえれば例外が少ないという点で、自分の性格に合っており、また、先生方に丁寧な指導を頂けたというのが大きかったように思います。

ドイツ語を学んで良かったと思う点は、大きく3つあります。1つは、先述の通り、心理学や哲学の授業の中で出てくる専門用語の意味がより原義に近い形で理解しやすいという点です。ドイツ語の知識が全く無い状態だとおそらく聞き流していた用語も、ドイツ語だというだけで親しみやすく感じて耳に残っていた、ということがこの3年間で結構あったように思います。

もう1つは、英語の授業を並行して受講し、違いを意識しながら文法を勉強していくことで、双方の言語への理解を深めることが出来た点です。完璧、とまではまだとても言えませんが、大学入学時点を振り返れば私の英語力は格段に成長したと感じています。

そして最後は、言語の授業全体に言えることですが、他学部との交流の手段が増えた点です。ドイツ語を履修していなければ出会えなかった友人が沢山出来ました。ドイツ語を上級まで履修したことで得た財産だと思っています。今でもたまにドイツ語を交えたメールを送ったりしますが、そんなメールを送り合える友人と一緒に、これからも独検など自分達なりの目標へ邁進していきたいと思っています。

ドイツ語＋英語学習奮戦報告（学ぶ楽しさと辛さ！）

知能情報学部4年 中江 広悟



僕は決して、外国語が人より出来た訳ではないのですが、去年の8月の約1ヶ月間、ロンドンの英会話学校に通い、その後でドイツのベルリン・フンボルト大学で約1年間の交換留学のプログラムをスタートさせました。ドイツでは、ドイツ語と英語の両方の授業を取っています。今思うと、かなり生意気な選択でした。この決断をした頃は、「とにかく海外で新しい何かを掴みたい！」という願いが強く、そこでの苦境すら楽しみにしていました。

まずロンドンの学校で、僕はダントツの劣等性でした。はじめにクラスのレベル分けの試験があるのですが、大学の受験勉強の際に磨いた文法力が、幸か不幸か、大いに役立ってしまいました。でも会話のスピードにはついて行けない状況で、道を切り開いたのは「ユーモア」でした。みんなで映画に行ったり、パブやディスコに行ったのも、今ではいい思い出です。ベルリンに向かうときは、充実感と寂しさで、少し放心状態でした。

そして、今度はベルリンで新たな旅が始まった訳ですが、これがまた苦勞しました。言語というものを「学力のステータス」と捉えようと、なかなか苦しいです。そうではなく、言語はあくまで「異文化交流の道具」だと思えば、楽になり、楽しくなり、そうなれば意外にも以前より話せるようになったりもします。

最初はそれこそ、屋台を出しているおじちゃんに「ダンケ！ ダス シュメックト ゼア グット！（ありがとう！ 凄くおいしいよ！）」と、言って、外国人と心を通わせることが出来るのも、外国語が出来てこそ。そこから、「もっといろいろ話してみたい」となれば、今度は日常会話レベルの言語力を。「もっと政治についての議論もしてみたい」ともなれば、かなりの時間が必要になってきます。実際に、本当になんでもない、ただの駄目な学生が、大学で履修した「中級ドイツ語」をきっかけに、留学へと導かれ、そこで自分には場違いと思えるような能力の高い学生と、机を並べることができたり、自分の国について初めて真剣に考えたり、ロンドンで出会った友達を巡りながら、ヨーロッパ旅行をすることが出来ました。たとえ、それが留学という形では無いにせよ、言語を学ぶことは、そういった可能性に満ちていると思います。残念ながら、島国で豊かだった日本は、言語学習に関しての関心はヨーロッパに比べると、かなり劣っていると思います。

トライする自分に後ろ指をさす人なんか放っておいて、大学にいる外国人留学生に声をかけてみては？
そこから新たな旅が始まります！ ^^

「学ぶことの大切さ」を私に教えてくれたフランス語

経営学部4年 稲橋 孝介



私は2009年に甲南大学にスポーツ推薦で入学し、1回生の第二外国語としてフランス語に出会いました。幼少期からスポーツばかりしてきた私は、英語も理解できず、もはやフランス語は「第一外国語」といった感じでした。フランス語の授業も最初は、ただ単位を取れば良いという気持ちでした。しかし、いつしか私はフランス語とフランスという国の魅力に引き込まれ、1回生の10月に国際言語文化科目を選択し、日々机に向かいました。＜目標を定め、努力する＞—それはスポーツと同じでした。そして3回生の夏、海外語学講座に参加し、フランスに1か月滞在しました。現地で話される早いフランス語を聞き取れないと悩みましたが、どうすれば良いのかと考え、改善しようとすることでその壁を乗り越えました。そしてホームステイの家族、クラスでの様々な国籍の友達とフランス語で話すことで、多様な考え方や価値観に出会い、周囲に触発されながら過ごせました。

フランスでの滞在を通し、環境や文化の違う人々と話せるのは、外国語を学ぶ喜びの1つだと実感しました。こうした喜びは、今まで日本でスポーツばかりしていた私には出会うことのできないものでした。それはもちろん他の国でも出会えた喜びかもしれませんが、私はフランス人の持つ食事に対するこだわり、ものへのこだわり、そして自分の意見へのこだわりに賛同したからこそ、フランス語に出会えて良かったと心底思っています。

2011年の2月に仏検準2級に合格し、4月には就職先も内定したので、6月の2級に挑戦し、大学在学中に仏検準1級取得という目標に向かい努力し続けます。

知的好奇心から複数の外国語（英語・フランス語・中国語）を学ぶ

文学部歴史文化学科3年 礪田 かえで



フランス語を学び始めたきっかけは、フランス甲南学園トゥレーヌ高等部への進学でした。中学時代は英語に力を入れており、その学びを通して視野が広がり、外国語を使って異文化の相手とコミュニケーションがとれる面白さを味わいました。「自分の世界が広がる感覚」に知的好奇心が刺激された私は、新たな外国語に挑戦することで、より多くのものを得ようと考えています。

高校の3年間は、フランス人の先生たちの授業が多く、学んだフランス語の表現をすぐに使える環境があったので、あらゆる場面で学びの場となりました。

甲南大学入学後もフランス語を履修して勉強を続けていますが、日本では、普段の生活の中でフランス語を話す場面がないため、毎年、フランス語の強化合宿に参加し、フランス人留学生たちと話す機会を見つけるよう努力しています。また、2年前の夏、フランスの海外語学講座に参加し、再びフランスの地で、しかも色々な国から来た学習者たちと一緒に勉強する機会に恵まれました。現地では、新たな発見や仲間との出会いがある一方で、高校時代に培った自分のフランス語力が維持できていないと再認識できた有意義な1ヶ月でした。

さて、英語とフランス語の勉強を続けながら、ラテン語も半年間かじりました。昨年からは、中国語の授業も正式に受講しています。中国語は発音が難しそうなので、逆に興味を引かれ、挑戦する気になりました。中国語の強化合宿にも参加し、チューター制度もよく利用しています。現在、中国語の中級科目を履修中で、6月には検定試験を受け、夏には中国への海外語学講座に参加します。

複数の外国語を学ぶことで「自分の世界を広げる」—これこそが「外国語を学ぶ喜び」だと私は考えます。

ことばで境界を越える

法学部4年 若林 まい



トルファンでベゼクリク千仏洞で民族楽器を演奏している現地の男性と

『mā má mǎ mà』文字で書いてみると、さっぱり何のことかわからない。だが、中国語を学ぶ人たちにとって、これは中国語習得のための第一関門なのだ。ドレミの音階を知らないで歌が歌えるだろうか。中国語の最も重要な四声と呼ばれる発音は、正しいアクセントでないとまるで通じない。こんな難しい言語は他にないだろうと私は思う。

私が中国語を勉強するようになったのは、高校2年の夏に香港を訪れたとき、現地の人と何も話せなかったのが惜しいと感じたからだ。帰国してから、テレビの中国語講座に夢中になった。大学では1年から3年までに中国語の全科目を履修し、中国語に触れることを楽しんできた。2年の時には夏休みを利用して、中国横断の旅に出た。神戸港を出港し、2泊3日かけて上海に向かう。上海から新疆ウイグル自治区のウルムチという街までのおよそ4000km、今までに体験したことのないような鉄道での長旅だ。自然、文化、言葉、人、すべてが新鮮で刺激的だった。

自分の言葉で、自分の耳で外国語に触れるということは、新しい文化や価値観に出会う最高のチャンスだと思っている。住む場所は違っても同じ人間同士、理解し合えることの喜びは誰もが感じるはずだ。留学生や日本に来る外国人観光客と交流するとき、必ず意識していることがある。それは、日本に興味を持ってくれていることに感謝するということだ。日本に住む外国人の中には、日本人より日本のことをよく知っている人は少なくない。外国語を学ぶことで外国人の目に映る日本を知ることができる。そう考えると、日本の素晴らしさを再認識できるのも外国語を学ぶ良さなのだろう。私自身、これから世界に進出できる人になりたいと考え、今年の8月から半年間、上海大学に留学する。中国の勢いに負けないくらい意欲的に学びを楽しもうと思っている。

ことばで世界は変えられるか

2011年法学部卒 山本 美智子



中国山西省の伝統的な家屋にて

私は甲南大学法学部を2011年に卒業し、現在中国北京の清華大学の大学院で国際関係を学んでいます。私は学生時代から海外で仕事をしたいという夢があったため、大学1年の頃から英語と中国語の科目を4年間選択してきました。去年の8月に清華大学に入学し、中国の学生や私と同じ留学生たちと毎日中国語や英語で専門科目の授業を受けようすぐ1年になるところです。北京に来た当初、中国語はある程度話せるようにはなっていたため、日常生活での会話は支障がなくても、授業での専門用語や理論的な内容の理解は難しく流石に苦労しました。もちろん今でも躓くことが時折あります。しかし、常に外国語が

生活の中にある場合、語学の習得の速さは格段に違うことを感じながら毎日を過ごしています。

私自身外国語を学ぶ大切さとは自分の世界が広がることだと信じています。実際に留学して感じたことですが、語学力や知識だけでなく、先生や友人の輪が広がったことや、中国の本当の姿を知ることとは日本での生活だけではできないことです。私が中国を留学先に選んだ理由は、何度か旅行に来た時に、とても躍動的で人情味のある国だと感じたことや、また今後世界の中で重要度が増す国であると考えたからです。現在私の目標は中国各地を旅し実情を知ること、また民間の交流を経て日中関係を改善していくことです。実際に、現在国際関係を学び感じたことですが、過去の歴史問題や首相の靖国神社参拝問題は、中国人が日本に対して今なお悪感情を抱く原因の一つであることは否定できない部分です。しかし、日中間の友好的な関係は、政治経済分野の発展だけでなく、私たち国民にとっても重要であるため、自らの語学力を使って世界を変えていきたいと思っています。

韓国語を学ぶ喜び

経営学部2年 則直温子

私は第2外国語として韓国語を選択して、中級韓国語を受講しています。私が韓国に興味を持ち出したのは、韓国のドラマがきっかけでした。高校2年生の時にたまたまつけたテレビに放送されていた韓国ドラマを始まりにあらゆるドラマを見るようになり、その面白さに惹かれ日に日に韓国に対する興味が増していきました。本格的に韓国語を勉強し始めたのは大学に入り、第2外国語として履修することになってからです。それまでは文字も読めず書くことも出来なくて、ただドラマを見て耳で聞いて単語やセリフを覚えていました。基礎韓国語では、母音子音の読み書きから入り、発音や単語、文法や簡単なあいさつなどを学びました。文字が書け、読めるようになり、今まで耳で聞いていた言葉はこういう意味でこう書くのかと分かるようになり嬉しくて、毎回の授業で韓国語を勉強することが楽しくて仕方がない程でした。日に日に分かる単語も増えていき、ドラマを見ていて聞き取れる言葉も増えていきました。いつしかもっと多くのことを学びたい、もっと韓国語が出来るようになりたいと思うようになり学校の授業だけでなく、参考書を買って日々自分なりに勉強を進めています。私はこの1年間に3回韓国へ訪れたのですが、初めて行った時と比べてみると、やはり言葉が全く通じなかったのが、相手に伝わるようになったし、少しの会話くらいなら出来るようになりました。店などで韓国語を話してみると「韓国語勉強しているの?」と興味を示してくれますし、韓国の方はとても親切にしてくれます。はじめは地下鉄の乗り方も分からなかったけれど、今ではT-moneyカードという韓国のチャージ式交通料金プリペイドカードも持っています。少しずつですが行くと共に上達していることが分かり喜びを感じられます。しかし、まだまだ分からないことだらけで、韓国へ行くと刺激を受け、帰国するともっと頑張ろうと思います。そして韓国語だけでなく、韓国の歌や文化など、韓国のあらゆることに興味を持つことも大切だと感じます。韓国ではどんな歌が人気でどんなファッションが流行っているのか、またどんな都市があり何が栄えているのか、など知れば知るほど韓国が好きになっていき、興味も増していくからです。それ以外にも韓国語の先生方、韓国人の友達、私のように韓国が好きな周りの友達、それに加えて他国から来た留学生などとも交流を持つことが出来るようになります。このように韓国に興味を持ったことで、私自身どんどん視野が広くなり、たくさんの人との出会いもありました。すべて自分にとってとてもプラスになったと思うし、行事や交流会にも進んで参加するようになり、どんなことにも積極的に行動するようになりました。私は韓国に興味を持ち始めてから3年ほどになりますが、韓国が好きな気持ちと、もっと韓国語が出来るようになりたいという意欲が日に日に増しています。今では韓国が私の全てだといっても過言ではないぐらいです。また先生をはじめ韓国の方々には本当に良くしてくれるし、私を支えてくれます。韓国語を学んで本当に良かったと心から思うし、その恩を返すためにもこれからたくさん努力していくつもりです。まだはじまったばかりで、挫折の毎日ですが、私は将来、日本と韓国を繋ぐような仕事に就きたいと思っています。私のような韓国に関するほんの些細な問題意識は、隣国理解からより幅広い異文化理解、そして将来の仕事にまで繋がっていくことであろうと思います。



清溪川「チョンゲジョン」(ソウル)

ユニバーサル・スタジオで

マリナ・バラアン (Marina Balain)



私には日本語を勉強してよかった経験がたくさんありますが、一番良かった事は日本語がわかるようになったことです。今までにユニバーサル・スタジオに三回行ったことがあります。最初に行った時、アトラクションのせりふが全くわかりませんでした。話し方が速すぎたし、私のわかる単語が本当に限られていたから、アトラクションの説明がわからぬまま乗り物に乗りました。ところが、最近行ってみると多くの新しいアトラクションができていましたが、そのアトラクションのせりふがほとんど全部理解できたんです！！聞き取り能力が伸びたことが実感できて本当にうれしかったです。やはり、アトラクションの話がわかって乗る方が楽しいです。最近ホストファミリーとも日本人の友達ともだいたい何についても話せるようになりました。これも本当に嬉しいことです。九ヶ月間日本語を一生懸命勉強して良かったです。これからも頑張りたいと思っています。

私の人生を変えた日本語

ケース・ジャワースキー (Casey Jaworski)



外国語の勉強を続けると仕事や住む国などの可能性が広がりますが、それ以前に言語を習うこと自体が素晴らしいと思います。大学に入ってから私には日本語の勉強が一番面白く、他の科目よりも自発的に習いたい気持ちが強く湧いてきました。日本語の作品をオリジナル版で見たかったからです。そんな作品が勉強道具になると、勉強はもう苦勞ではありません。私が興味を持っているのはアニメ、映画、ゲーム、歴史、本、哲学、心理学、そして言語自体もですが、それら全部を探求する東アジア研究日本語専攻を自分の専門にすることに決めました。

言語を勉強すると人生も変わります。私は元々恥ずかしがり屋だったのですが、日本語を習い始めてから1年で初来日した時、日本語がうまくなりたくて「一年生日本語」で頑張っって日本人と会話をしました。そうしたら恥ずかしさの感情がなくなり、言語の才能や実力とは別の「自信」ができました。「やってみよう」という自信です。それがあれば何でもできます。

留学の魅力

ダニカ・リム (Danica Lim)



昨年は東北大震災という大きな災害があって日本への留学を諦めた人は少なくなかったです。しかし、震災後にもかかわらず日本語を学習するため留学してきた人たちが集まりました。私はこの留学プログラムを通して昨年9月から今年の5月までの9ヶ月間のうちに、心を打ち明けられる友人、些細なことにも一緒に大笑いできる友人たちと出会えたことが本当に嬉しいです。東北の災害があったので、両親と大喧嘩しながらも日本への留学を決心した色々な国の人たちと喜怒哀楽を分かち合っって、一生忘れられない美しい思い出を作ることができました。この経験を通じて感じたのはやはり留学は人生勉強になるということです。私は今回の留学で人の大切さをもっと感じました。留学を通して一期一会の出会いができるのが留学の魅力の一つだと思います。いい出会いができたというのは非常に恵まれたことです。人にとって一番大きな財産は人だと思います。